

# 私の月

御津中学校三年

「生徒会選挙の責任者になってもらえないかな。」

幼なじみからの突然の一言に驚き、頼りにされた嬉しさと同時に、人前に立つことの不安に襲われました。私は、正直に、

「人前に行くことに全く慣れていなくて不安なんだよね。考える時間、もらってもいい？」

と、返答すると、

「いきなりだし、いいよ。いくらでも待つからね。」

と、友は笑顔で言ってくれました。

引き受ければ、弱い自分を変えることができるかもしれない。けれども、引き受けて、もし言葉につまったらどうしよう。焦ってゆでだこみたいにならたらどうしよう。休み時間や下校途中、夜の就寝前、目を閉じて舞台上がる自分を想像するたびに不安に襲われ、自分に自信がもてないまま日にちが過ぎていきました。

でも、そんなある日、母が、

「みんなの前に出るときは下を向くんじゃない。前を見て『私を見て』と思うの。そうすればきつと上手くいくよ。」と、アドバイスしてくれました。そして、この言葉は、わたしの好きな「月」の言葉だと教えてくれました。「月」とは、私が小学校六年生の時に、急死した伯母のことです。学生の時に、チャリダーをしていた「月」は、この言葉を支えに大会に出場し、何度も何度も優勝してきたそうです。私にとって、「月」はあこがれの女性です。思い出すのは、「月」の笑顔や優しさ、いとこを慈しむ様子……。『月』の言葉を聞いた私は、「私も『月』のように輝いた人になりたい。」と、今までの不安が嘘のように、

一瞬で取り除かれました。翌日、すぐに友に、「私、責任者になる！」と、宣言しました。私は一人じゃない。私には、友も家族も先生も、そして『月』もみんながついてくれている、何があっても大丈夫だと思えたのです。友は返事を聞くと、ぱっと心が膨らむように明るく笑って、私を抱きしめてくれました。それから私たちは公約作成や発表練習にぎりぎりまで励み、一緒になって頑張れる喜びに満ちていました。もう不安は、何一つありませんでした。

そして、立合演説会当日。私は一度もうつぶかず、舌も嚙まず、そして友への思いも込めて発表することに成功しました。それが、どれほど嬉しかったことか。練習での友の真剣な表情や「頑張ろう」の言葉、舞台上上がった時のあの光景は、今でも忘れられません。

「月」が今の私を見たら、きつと褒めてくれるはずですよ。それ以上に、「月」が生きてそばで見守っていてくれたら、どれほど心強いことでしょう。もっと「月」の話を聞きたかった。受験で不安になる今こそ、そばにいて励ましてほしい。けれども、亡くなった命は取り戻せません。取り戻せないものがあるからこそ、時間も物事もすべて大切にしておいて挑戦を重ね、後悔のない人生を作り上げていきたいです。私の「月」はいつもそばにいてくれるから、「月」が私の人生を明るく照らしてくれるから、自信をもって進んでいきたいです。

## 【中学生の主張の「題」】

『ちゃんと見てる？』

小坂井中

『すべての人が』

『可能性を捉える』

東部中

『生きやすい世の中に』

『心で受けとめて』

西部

『多くの命に笑って』

『敏感って悪いこと？』

南部中

『ほしい』

『共につくる』

代田中

『小五の自分より』

『私の歴史に残る日』

一宮中

金屋中

